

多文化共生事業事例集

年度
30

団体名

(公財) 和歌山県国際交流協会

助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業

ジャンル

事業費総額 2,600 千円

防災

事業名

外国人住民が考えた！「防災啓発 DVD 制作」事業

特徴

外国人の視点で作成した防災啓発番組 DVD

事業のポイント

- ◇地域活動や自国の人への支援ボランティアを行っている外国人住民をメンバーとした外国人住民ネットワーク会議を開催した。
- ◇日本での生活基盤が安定している外国人であっても、災害に関する意識が低かった。
- ◇ネットワーク会議で外国人住民から見た防災についての考えを聞き出し、それに基づいて防災啓発DVDを作成した。

事業の背景・目的

- ◇和歌山県で言葉や文化の違いを乗り越えながら生活している様々な外国人に焦点をあて、生活の様子を紹介し、災害発生時など、命にかかわる有事が起こった際の取組みとして、外国人の視点で作成した防災啓発DVDを見ることで、異なる文化を持つ人達への理解・関心が深まる。このDVD作成にあたって、外国人住民が地域社会へ参画することを目的とした。

事業の概要

「BOSAI GUIDE 防災ガイド」(当協会・NHK和歌山放送局共同制作の多言語パンフレット)をベースにした防災啓発ビデオグラムの制作

① 規格・数量

DVD 媒体 16分 マスター1本

② 音声・字幕

「やさしい日本語」による音声

英・中・韓・フィリピン・タイ・ベトナム・インドネシア語等のサブタイトル選択

③ 構成・内容

ア 地域で働き、地域で暮らす外国人

私達の住む地域には、企業や医療現場、学校、農業等で働き、暮らす多くの外国人がいることを紹介し、地域の一員としての外国人について理解を広める。

イ 外国人の視点で見た災害や防災啓発・避難所生活における問題点

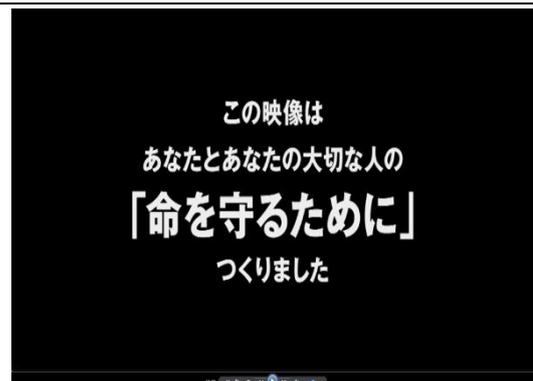
災害の怖さや防災啓発がなかなか普及しない現状、避難所生活等について、外国人の視点で検証し、どのような問題点などがあるのかを明らかにする。

ウ これからの防災啓発、避難所運営等のあり方を提案

「やさしい日本語」やクレアの推奨する「災害時用ピクトグラム」等も活用しつつ、災害時の情報弱者としての子ども達、外国人観光客等を意識した、多文化共生社会における防災啓発・避難所運営等のヒントを探る。



ネットワーク会議で防災について話し合う



防災啓発DVDの導入画面

事業実施における工夫点・事業の成果等

◇ネットワーク会議を開催するにあたり、ファシリテーターを防災意識の高い外国人に依頼した。メンバーからアンケートを取りつつ、会議を進めた。最初は思うような意見が出てこなかったが、話し合う中で、災害に関する基礎知識が出身国によって違うことや、地域住民でありながら、地域で開催される防災訓練などへの無関心、無理解などが浮き彫りとなった。

また、災害が発生した際に放送される避難や勧告などの情報が、言葉が難しいため何を話しているか全く理解できないなど、言葉の問題も多く出てきた。東南海地震が起こった場合、和歌山県がどうなるかは、東日本大地震の被害を目の当たりにして想像は多少できていたものの、危機感をもっていなかった。この様な話し合いを通じて、地震発生により災害が

二次、三次的に広がっていくことなどを整理する必要性や防災の基本的な知識、日頃から日本語を勉強することの重要性、近所とのコミュニケーションなど、外国人であっても災害時には同じ地域住民として行動することに対する理解が大切であることをまとめ上げていった。

◇このDVD作成にあたり、外国人住民のキーパーソンとなる人材が得られたことや「やさしい日本語」の普及、DVDを見た外国人の災害の怖さや日頃から準備する物などへの関心の高まりなどの成果が得られた。またDVDを見た日本人からも、やさしい日本語を使っていることで理解しやすいとの意見が多く、日本人対象の防災研修に使用したいという声もあり、外国人住民の目を通すことで日本人にもわかりやすいDVDにもなった。

今後の課題・将来に向けての展望等

◇今回のDVD作成にあたって、NHK和歌山放送局の協力を得て、画像などを多く使用させていただいた。

ただ、著作権の問題などがありSNS等に画像を自由に掲載することができず、不特定多数の方に見ていただくことができないという課題が残った。

◇「やさしい日本語」で作成していることで、DVDを見た方は外国人＝外国語というよりは、「やさしい日本語だと外国人に通じる」という意識ができてきている。「やさしい日本語」とは何かということも大事だが、これが将来地域の多文化共生推進に繋がっていくと思う。

また、ネットワーク会議に参加した外国人住民も自分達の意見が反映されたものができたことで地域住民の一人になったと感じている。多文化共生推進を進めるにあたって、外国人住民の意見は重要であり、彼らの抱える問題を一つ一つ聞きながらできることから始めていくことが大切であると思った。



防災啓発DVD

事業担当者のふりかえり

今回のDVDを作成するにあたって、言語は「やさしい日本語」を基本にした。

日本に在留する外国人の多くは「やさしい日本語」を使うことで日本人とのコミュニケーションができるが、日本人側がそのことを知らないことが多いのではないかと思う。

防災啓発DVDを見た人からは「日本語がわかりやすい」という意見が多く、この日本語だったら外国人の方も理解できるのだという認識を得た。「やさしい日本語」の定義はあるものの、各個人がやさしい日本語を使い、外国人住民と交流を深め、地域のコミュニティを作っていくことで、防災をはじめとした様々な地域の問題が解決されていくように思われた。